



きびたきだより

ふくしまから はじめよう。福島応援隊

第61号

2021年6月1日

発行 東久留米市福島県人会

コロナ感染第4波で3回目の緊急事態宣言

第9回定期総会は文書総会にて

98名の議案承認を受けました。



コロナ感染再再拡大・第4波を受けて6月20日まで「緊急事態宣言」が延長されました。会場を借りての総会は困難という判断で東久留米市福島県人会の第9回定期総会の議案書と賛否のハガキを会員の皆様に送付して文書総会にしました。

5月31日までに返信ハガキ・添付メール・口頭での意思表示で98名の方から議案の承認を受けました。

承認された活動方針に沿って、役員一同今年度も一生懸命頑張りたいと思います。

ご協力をよろしくお願いいたします。

子供の頃の思い出 団地 vs 商店街

時田良枝(いわき市出身)

私が生まれたのは、いわき市の平駅(現いわき駅)から徒歩10分ぐらいのところにある小さな商店街です。布団屋の実家の隣は郵便局。周りには、すあまが美味しい和菓子屋石川屋さん、お向かいタバコ屋吉田屋さん(小さい頃、弟がうまく言えずに「よしやだ」と言ってから、家族全員よしやだ、と言っていました)。斜め向かいの自転車屋さんでは、お兄さんがいつも自転車を修理していて、その姿がなんともかっこよくて憧れ。お葬式の花

輪を作っているみつおじちゃんと市場の社長バナナのおじちゃん辺りは、よくうちに来てはタバコふかして話していました。蓬萊先生という耳たぶが大きくて体格もよい仙人みたいなお医者さんがいる内科、その近くに清水さんがやっている薬局、それから電気屋さんもあったり。南米好きなママさんのモンテヴィデオという喫茶店は、高校時代にちょくちょく行っていた大人ぶってみる場所でした。同世代の男の子に数学習っているのを近所のおじさんに発見され親に通報？されたりもしました。ぐるっと回っても五分もかからないような小さな町でしたが、いろんな大人の人が出て、子どもの自分ともずいぶんたくさん話してくれました。そう、子どもが少ない地域だったんです。

私は第二次ベビーブーマーなのですが、子どもがいっぱいいいたのは、その頃出来た団地の方で、商店街の子はほんとに少数派でした。だんだん思い出し出してきましたが、そうそう、小学校では毎年地区別に分かれて、男子はソフトボール、女子はフットベースの大会が開かれていたのです。団地組はいくつもチームができるのに、商店街は、一つの町だけでは一チームすら作れず、隣同士のいくつもの町合同でやっと一チーム作っての参加でした。そしてそんな寄せ集めで勝てる訳もなく、毎回初戦敗退に甘んじていたのです。

たった一度、私が四年生の時、フットベースが決勝まで行った時の喜びは、格別なものでした！その時私は、なんとレフトを守っていたのです。大きなフライのボールを胸いっぱいキャッチして、身体全体がジーンと痺れるほど痛いのに、とれた！と、嬉しかったこと、今でも覚えています。相手チームのヤジ、今さら思い出すけど、ひどい言葉もいっぱいだったなあ。ビビってる！とか、口を揃えて言われながら打席に立つ怖さ！今でもひたひたと思い出せます。それでついつい、口汚く言い返していた商店街チームの小さな私でした。いわき時代を思い出そうとすると、身体の奥から思い出がわいてきますね。子どもの自分の記憶、眠っていることまだたくさんありそうです。

